

**医学教育分野別評価 東京医科歯科大学医学部医学科 年次報告書
平成30年度**

評価受審年度 2017（平成29）年

1. 使命と教育効果

改善した項目

1. 使命と教育成果	1.1 使命
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>「知と癒しの匠を創造する」というスクールミッション、3つの教育目標「幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養」、「自己問題提起、自己問題解決型の創造的人間の養成」、「国際性豊かな医療人の養成」と、平成22年度から27年度までの中期目標からどのように7つの柱からなる医学科コンピテンシーが決定されたのかをその経緯を明確にすべきである。</p>	
改善状況	
<p>教育委員会を中心としたFDの成果物として、平成23（2011）年度導入新カリキュラム及び医学科コンピテンシーが作成され、科目間の関連や実施順序について学生が理解しやすいような形でシラバスに明示している。（大学機関別認証評価自己評価書69ページ参照）</p> <p>医学科のコンピテンシーについて、オリエンテーションやFDなどでも周知を行っており、また各学年の終了時、卒業時などにコンピテンシーの達成度についてアンケートを行い、振り返りを行っている。シラバスにも、コンピテンシーの中で達成できることを明らかにしている。これらの活動を通してコンピテンシーの周知度が高まっている。</p>	
今後の計画	
<p>さらに、いろいろな機会を通してコンピテンシーの周知を図っていくことにしている。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-1 大学機関別認証評価 自己評価書	

1. 使命と教育成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>国際保健に関しては、教育目標に「国際性豊かな医療人の養成」を挙げ、医学英語教育の充実を図り、さらに多くの海外の大学と教育連携していることは評価できるが、どのような国際保健についての貢献ができる学生を育てようとするのかを大学の使命として、さらに明確にしていくことが今後望まれる。</p>	

改善状況
研究実践プログラム（2年次～6年次通し、10単位）を研究実践プログラムⅠ～Ⅴ（各学年で履修、各2単位）に分割、1年ごとの履修で単位を修得できるよう、学部専門科目履修規則を改正した。研究実践プログラムの履修者数は年々、増加している。
今後の計画
さらに、できるだけ多くの学生が海外に派遣できるような計画をたてている。その中で、海外での短期臨床実習の数を増やすことにしている。それによって、本学での教育が、国際的に通じるかどうか、実戦で確かめる機会を作っていくことにしている。
改善状況を示す根拠資料
資料1-2 研究実践プログラム（平成24年度開始）履修者数推移

1. 使命と教育成果	1.2 使命の策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
スクールミッション、教育目標、医学科コンピテンシーの作成という重要な項目の決定に、学生と大学職員も関与できる体制を作っていくべきである。	
改善状況	
平成28（2016）年度に学長シンクタンクを設置、各部局の教授を中心としたメンバーにより「20年後の大学像」について「中間まとめ」を作成した。また、平成30（2018）年5月に、中間まとめに基づき全教職員にアンケート調査を行い、アンケート結果を元に全学FD・SD（平成30（2018）年6月9日開催）にてパネルディスカッションを行った。	
今後の計画	
全学FD・SD終了後、改めて全教職員に対して事後アンケートを実施し、最終まとめを作成しているところである。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-3 平成30年度東京医科歯科大学全学教職員研修（全学FD・SD）プログラム	

1. 使命と教育成果	1.2 使命の策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
評価基準では、使命の策定に、教職員代表、公共ならびに地域医療の代表者、教育および医療関連行政組織、専門職組織、医学学術団体および卒業後教育関係者からの意見を求めることが求められている。どのような人から意見を求めるかも含め、幅広い教育関係者から使命についての意見を求めることが望まれる。	

改善状況
卒業試験受験資格、臨床実習合否判定、さらには臨床実習の今後の教育目標等を審議するため、新たに「臨床実習科目評価判定委員会」を設置した。
今後の計画
今年9月の第1回開催に向け、弁護士、患者団体の代表者及び学術団体の理事を委員として委嘱し、幅広い教育関係者から意見を求める予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料1-4 臨床実習科目評価判定委員会内規

1. 使命と教育成果	1.4 教育成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>卒後臨床研修終了時の教育成果が必ずしも明確でないため、卒業時の教育成果（医学科コンピテンシー）との関連性が学生に分かりにくくなっている。今後、卒後臨床研修の担当者との協議を行う等、卒前と卒後の教育成果の整合性を整え、学生が卒業後の臨床研修と、卒前の医学教育との連続性を理解できるようにしていくことが望まれる。</p>	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5、6年次必修科目「包括医療統合教育」講義として、主に本学医学部附属病院研修医向けに開催している「イブニングセミナー」を履修、同セミナーにて各診療科からの具体的な症例提示等を臨床研修医とともに学習することにより、卒業後の臨床研修との連続性を理解できるカリキュラムとしている。 ・ 6年次臨床実習の選択実習期間（4月～9月）に地域特別枠入学者が臨床研修を行うこととなる病院や本学関連病院での学外実習を選択できるようにしており、卒業後の臨床研修との連続性を考慮したカリキュラムとしている。 ・ 6年次に多職種連携教育「チーム医療入門」を実施、歯学科、保健衛生学科のほか早稲田大学・星薬科大学・上智大学と合同でグループワークを行うなど、卒業後の医療チームについて学習できる。 	
今後の計画	
多職種連携教育を含めた包括医療ブロックのさらなる充実を図り、チーム医療の中のリーダー教育をさらに活性化させることにしている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-5 イブニングセミナー開催実績 資料1-6 平成29年度臨床実習・学外実習先一覧 資料1-7 平成30年度包括医療統合教育「チーム医療入門」時間割	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育効果	1.3 大学の自律性および学部への自由度
質的向上のための水準 判定：適合	

改善のための助言
教養教育において医学部が望む教育の実現に向けて教養教育担当部署・教員とより密接なコミュニケーションを取ることが望まれる。
現在の状況
医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）で設定されている「行動科学」をカバーする授業科目を新たに設けることにした。歯学科についてもモデル・コア・カリキュラムのなかで「行動科学」が設定されたため、全学的にどのような「科目」を設定するべきかを検討するために、全学の組織である統合教育機構の中に「行動科学教育検討チーム」をつくり、検討をすることになった。
今後の計画
「行動科学」の教育内容を検討し、平成 31（2019）年度より現行カリキュラムに反映させる。
現在の状況を示す根拠資料
資料1-8 平成29年度第1回教養教育チーム会議メモ 資料1-9 平成29年度第1回2年次3年次における教養教育WGメモ

2. 教育プログラム

改善した項目

2. 教育プログラム	2.1 カリキュラムモデルと教育方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
臨床実習で重要診療科を必ずローテーションさせようと組んでいることは評価できるが、実際に学生が重要な症例を平等に経験できるよう更なる工夫を行っていくべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の4年次に履修する「臨床導入実習（PCC）」では全重要診療科が担当して少人数実習を行っており、重要な症候・疾患を全学生が学べるようにしている。 平成 30（2018）年度から、ハウスプログラム集合学習セッション（学生が経験した症例について、小グループに分かれて検討を行うセッション。全員必ず1回はプレゼンを行う。）にて、検討される症例を増数し、さらに高度な高度臨床推論、EBM（診断/治療）に議論点をシフトした。これにより、自分がローテートしない診療科での症例について深い考察を行う機会が全員に提供されることとなる。 第5学年では、内科および外科について、限られた診療科しか経験できないことを受け、第6学年の選択実習（2週間ローテーションが合計8個）においては第5学年で経験できなかった診療科をローテートできるよう配慮している。 	
今後の計画	
各診療科において重要な疾患を列挙し、ローテートする学生が必ず担当・見学または症例検討会などにおいて必ず経験できるよう体制を構築する。	

改善状況を示す根拠資料
資料2-1 2018年度ハウス計画案
資料2-2 平成30年度 臨床導入実習 (PCC) 実施アンケート

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学および医療倫理学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>行動科学に関しては、自己点検評価では、「教養課程において、文化人類学、心理学、社会学科目が設置され」と記載があるが、第1学年でのコンピテンシーの記載がなく、さらに全学生が医学教育6年間でどのような「行動科学」を学ぶのかが示されていない。医学科コンピテンシーの中で「行動科学」としてどのような能力を涵養するのか明示すべきである。そのためには、「行動科学」の教育内容について全学的な討議をすべきである。</p>	
改善状況	
<p>医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）で設定されている「行動科学」をカバーする授業科目を新たに設けることにした。歯学科についてもモデル・コア・カリキュラムのなかで「行動科学」が設定されたため、全学的にどのような「科目」を設定するべきかを検討するために、全学の組織である統合教育機構の中に「行動科学教育検討チーム」をつくり、検討をすることになった。</p>	
今後の計画	
<p>「行動科学」の教育内容を検討し、平成31（2019）年度より現行カリキュラムに反映させる。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-3 平成29年度第1回教養教育チーム会議メモ	
資料2-4 平成29年度第1回2年次3年次における教養教育WGメモ	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>チーム医療入門が6年次に2日間で行われているが、患者安全や患者中心の医療の観点から、実際の臨床の場での多職種連携教育を拡充していくべきである。</p>	
改善状況	
<p>今年度から、医歯学融合教育の一環として、医学科6年生全員・歯学科6年次の科目選択者（18名）を対象に医学部附属病院緩和ケア病棟、歯学部附属病院歯科総合診療部における連携実習をトライアルで開始、互いの臨床実習現場において医療・歯科医療の現場を体験し、将来必要となる医歯連携・多職種連携に対する知識を深めた。</p>	
今後の計画	
<p>トライアル結果を踏まえ洗練を図り、正式導入を行う。</p>	

改善状況を示す根拠資料	
資料2-5 平成29年度医学部附属病院歯科総合診療部・医学部附属病院緩和ケア病棟連携実習シラバス	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
大学附属病院だけでなく、広く医療ニーズを体験できる患者接触の機会を設けることが望まれる。	
改善状況	
平成30(2018)年4月から、高齢者のリハビリテーション科のある病院とも実習協定を締結し、より幅広い医療ニーズを体験できる実習の場を広げた。	
今後の計画	
引き続き実習協定先を随時更新し、実習の場を広げていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-6 平成29年度臨床実習・学外実習先一覧	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が医学科教育委員会のいくつかの下部組織に正式な委員として参画することとなった。今後この学生参加がカリキュラム立案に実質的に機能していくことを確認するべきである。	
改善状況	
平成30(2018)年1月に学生を委員に加えた「研究者養成専門委員会」を開催し、教員・学生間で活発な意見交換を行った結果、研究者養成コース入学資格を従来の4年次終了時だけでなく5年次終了時学生も対象に加えた。 平成30年2月に学生を委員に加えた「臨床実習専門委員会」を開催し、今後の臨床実習及び臨床導入実習プログラムに関して、活発な意見交換を行った。	
今後の計画	
平成30(2018)年度中に「研究者養成専門委員会」及び「臨床実習専門委員会」を再度開催し、各プログラム改善のために協議していく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-7 平成29年度第1回研究者養成専門委員会議事次第 資料2-8 平成29年度第3回臨床実習専門委員会議事次第	

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	

改善のための示唆
教育成果の評価・改善を検討するためには、教育実施のメンバー以外に学生、教職員および他の関係者からの意見を集めることが望まれる。
改善状況
卒業試験受験資格、臨床実習合否判定、さらには臨床実習の今後の教育目標等を審議するため、新たに「臨床実習科目評価判定委員会」を設置した。
今後の計画
今年9月の第1回開催に向け、弁護士、患者団体の代表者及び学術団体の理事を委員として委嘱し、幅広い教育関係者から意見を求める予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料2-9 臨床実習科目評価判定委員会内規

3. 学生評価

改善した項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
臨床実習のローテーションごとの OSCE、mini-CEX の信頼性と妥当性の評価を示すべきである。医歯学融合教育評価・改善検討ワーキング・グループのほかにも、学内試験の評価に、より多くの外部評価者を参加させるべきである。	
改善状況	
卒業試験受験資格、臨床実習合否判定、さらには臨床実習の今後の教育目標等を審議するため、新たに「臨床実習科目評価判定委員会」を設置した。	
今後の計画	
今年9月の第1回開催に向け、弁護士、患者団体の代表者及び学術団体の理事を委員として委嘱し、幅広い教育関係者から意見を求める予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-1 臨床実習科目評価判定委員会内規	

3. 学生評価	3.2 評価と学習の関連
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
技能・態度に関する評価についても適切にフィードバックを行うことが望まれる。	
改善状況	
平成 29 (2017) 年度に、臨床実習の評価について、全科を通じてより客観的な評価を蓄積できるよう、各学生・教員がすべての科の評価を一覧できるシステム（電子版臨床実習手帳）を導入した。昨年度は医学科 5 年生のみ電子化していたが、今年度より 6 年生も電子化し、教員からの技能・態度の評価について同システムを通して学生にフィードバックできるようにした。	

今後の計画
電子版臨床実習手帳のシステムを発展させ、プロジェクトセメスター、研究実践プログラム等の授業科目においても、配属された研究室での技能習得、態度に対する評価をフィードバックできるシステムとすることを検討している。
改善状況を示す根拠資料
資料3-2 電子版臨床実習手帳資料

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
OSCE、mini-CEX、CSA など技能・態度評価と、共用試験、卒業試験、または、国家試験という知識評価の成績との関連を検討することが望まれる。今後、技能・態度評価にポートフォリオを活用することが期待される。	
現在の状況	
平成 28 (2016) 年度から統合教育機構教学 IR 部門が作られた。平成 29 (2017) 年度から、収集した情報の解析方法及び項目を検討し、解析を開始している。	
今後の計画	
解析結果を統合教育機構内の教育技法開発チームなどにフィードバックする。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料3-3 統合教育機構業務チーム一覧	

4. 学生

改善した項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
「他の学部や機関からの編入の方針や時期については学士編入学学生募集要項に明記されているが、編入生にとっての得失は十分には検討されていない。なお、研究者養成コース進学学生にとっての得失は別途記載されている。	
改善状況	
医学科教育委員会において、学士編入学生に対する既修得単位認定制度の適用について検討を行った。本学他学科を卒業し医学科に編入学する場合は重複する科目について履修を免除する方針が確認され、本学歯学科を卒業し今年度医学科に入学した学生に対し、既修得単位認定を行った。	
今後の計画	
本学他学科を卒業し学士編入学する場合は、既修得単位認定制度を利用できる旨、募集要項に明示する。	

改善状況を示す根拠資料
資料4-1 既修得単位認定申請書

5. 教員

改善した項目

5. 教員	5.2 教員の能力開発に関する方針
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
カリキュラムの構成、内容を定員増に対応させていくために教員の教育能力をさらに向上させ、教育業績評価を具体化していくことが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 (2018) 年度から、教育業績評価を行う際、全学教務システム（ドリームキャンパス）を用いて、講義担当教員をもれなく評価できる体制とした。 平成 29 (2017) 年度に、統合教育機構教育技法開発チームによる全学教員対象のアクティブラーニング導入・実施のための研修を計 3 回開催した。 	
今後の計画	
平成 29 (2017) 年度から運用を開始している WebClass での臨床実習学生評価システムを用いて、臨床実習教育に携わる教員に対し、これまでよりも計量的で明確な教員評価を行えるよう計画している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5-1 平成30 (2018) 年度シラバス作成依頼 資料5-2 統合教育機構教育技法開発チーム平成29年度教員教育研修（全学教員対象）（開催通知）	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
モニタリングの信頼性を高めるために学生による全ての授業・コース評価及び卒業時のアンケート調査の実施と回答率を更に向上すべきである。	
現在の状況	
平成 30 (2018) 年度から、統合教育機構が作成した全学科共通科目別アンケート、学年包括アンケートを実施し、必須事項をもれなく調査する。 平成 29 (2017) 年度医学科 6 年生の卒業時アンケートについては、全員同時（卒業試験最終日）に行い、回答率向上を図った。	
今後の計画	
コース評価について、統合教育機構の「IR チーム」で集積、解析し、その結果を同じく統合教育機構の「学士課程カリキュラム改善チーム」に伝達し、各学科の教育委員会にてカリキュラムの改善に反映できるサイクルを確立する予定である。そのために、統合教育機構の各チームの構成について改善した。	

現在の状況を示す根拠資料
資料5-3 全科目共通 科目別アンケート、学年包括評価の実施について

受審後に医学教育分野別評価日本版に新たに加わった項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
日本版注釈：教員の男女間バランス配慮が含まれる。	
現在の状況	
平成 30（2018）年度は、2017 年度時よりも 13 名女性教員が増えており、平成 26（2014）年度から毎年 1%ずつではあるが女性教員は増え続けている。	
今後の計画	
女性教員の働きやすい環境をつくるよう、全学を挙げての取り組みをさらに充実していくことにしている。	
根拠資料	
資料5-4 女性教員数調べ	

6. 教育資源

改善した項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生定員の増加に伴い、施設の狭隘化の傾向が認められる。教育方法等の工夫により、学生定員増に対応すべきである。	
改善状況	
2018 年度に、これまで主に実習に使用していた 3 号館 6 階の学生実習室について、講義及びアクティブラーニングにも使用できるよう、講義用システムを改修した。	
今後の計画	
改修した学生実習室をアクティブラーニングに使用するための使用法を広く周知する。また、アクティブラーニングという教育技法を充実させるための講習会を、統合教育機構が主催して行っている。それらの講習会に、より多くの教員が参加できるように周知する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料6-1 3号館6階学生実習室仕様図	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	

改善のための助言
附属病院での実習において不足する総合診療、common disease の診療、地域医療に関しての関連施設での実習・教育が、附属病院での実習に比して希薄になっていることが否めないため、その充実化が求められる。
改善状況
医学科 6 年生において、希望者には 2 週間の実習協定締結病院 (大学病院以外) での見学型実習プログラムを提供している。また医学科 6 年生の外科系のプログラムでは、希望者は関連病院で 1 週間～2 週間の実習がおこなえる。実習協定締結病院は 86 施設以上あり、附属病院以外での実習についても充実している。
今後の計画
医学科 6 年生において、海外短期臨床実習を経験できる数を増やす予定である。海外では、より多くの疾患に触れられるよう、適切な派遣先の検討を統合国際機構とともにしている。
改善状況を示す根拠資料
資料6-2 平成29年度臨床実習・学外実習先一覧

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生及び学内外関係者がさらにスキルスラボを利用できるようにすべきである。	
改善状況	
平成 29 (2017) 年 9 月に、スキルスラボにおけるシミュレーション教材を利用した学習機会の提供を積極的に検討するためスキルスラボ機器説明会 (教員向け) を開催した。説明会では、スキルスラボに導入しているシミュレータの販売業者も参加し、機器説明を行った。	
今後の計画	
スキルスラボの、より計画的な使用ができるよう、統合教育機構の「教育技法開発チーム」でスキルスラボを担当するようにした。これにより、より多くの教員がスキルスラボに関わることになり、スキルスラボを授業で使用したい教員のサポート体制の充実化を図るようになっている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料6-3 スキルスラボ機器説明会 開催通知	

6. 教育資源	6.6 教育の交流
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための助言	
海外の大学との交流において、送り出す学生数に比して、学生の受入が少ないように思われる。在学中に留学の機会を得ることのできない学生への教育的な影響を考慮して、海外からの大学生の受入数を増加させることが望まれる。	

改善状況
<p>平成 28 (2016) 年 5 月に短期交流学生受入れの規則を整備し、受入れの手続きを周知・明確化したことで主に基礎研究での受入れ学生が増加した。</p> <p>また、平成 29 (2017) 年度はアメリカ医科大学協会内に設立された、世界に存在する様々な学習機会への医科大学生のアクセスを向上させるための世界規模のネットワークである VSL0(Visiting Student Learning Opportunities)を介した学生を初めて受入れるなど、短期の外国人留学生の受入増加にむけて取り組んでいる。</p>
今後の計画
<p>臨床実習の海外派遣数を増やし、その分大学に受け入れる数を増やしていくことができるように考えている。また、海外からの研究実習の受け入れも増やすことにしている。</p>
改善状況を示す根拠資料
<p>資料6-4 短期交流学生の受入に関する要項</p> <p>資料6-5 平成28～30年度短期交流学生（海外）受入実績（医学部医学科）</p>

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>四大学連合との単位互換が行われているようだが実質的には多くの交流はなされていないようである、今後、より多くの交流を推進すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>平成 30 (2018) 年度は、学生からの要望を取り入れ、四大学連合・複合領域コースの提供科目を大幅に拡大した。また、本学学生の中にも他大学の夜間の授業を選択する者もでてきた。</p>	
今後の計画	
<p>四大学連合の授業がより多く選択できるように、カリキュラムの柔軟性を持たせることが必要である。そのために、新カリキュラムの検討を開始している。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料6-6 平成30年度 四大学連合・複合領域コース提供科目</p>	

7. プログラム評価

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>教養教育あるいはモジュール教育についての包括的教育評価は行われていない。カリキュラムの構成要素が等しく評価されるべきである。</p>	

現在の状況
平成 30 (2018) 年度から、統合教育機構が作成した全学科共通科目別アンケート、学年包括アンケートを実施し、必須事項をもれなく調査する。
今後の計画
コース評価について、統合教育機構の「IR チーム」で集積、解析し、その結果を同じく統合教育機構の「学士課程カリキュラム改善チーム」に伝達し、各学科の教育委員会にてカリキュラムの改善に反映できるサイクルを確立する予定である。そのために、統合教育機構の各チームの構成について改善した。
現在の状況を示す根拠資料
資料7-1 全学科共通 科目別アンケート、学年包括評価の実施について

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生からのフィードバックを受けて教育の継続的改善に役立てるべきである。	
現在の状況	
平成 30 (2018) 年度臨床導入実習について、学生からのフィードバックをもとに改善するため、平成 30 (2018) 年 7 月 26 日 (木) に「臨床導入実習 (PCC) 科目計画検討会」を開催し、関係教員間で協議した。	
今後の計画	
平成 30 (2018) 年度臨床導入実習について、教育効果、教員の負担等を考慮して、「全体講義で実施すべき内容」、「少人数講義で実施すべき内容」、「臨床実習開始後の教育で構わない内容」に分類すべく、担当する全診療科にアンケート調査を行っている。アンケート結果を踏まえ、今年度のカリキュラムに反映させる。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料7-2 平成29年度 PCC/CC総論フィードバックアンケート 資料7-3 臨床導入実習 (PCC) 科目計画検討会開催通知 資料7-4 平成30年度 臨床導入実習 (PCC) 実施アンケート	

8. 統括および管理運営

今後改善が見込まれる項目

8. 統括および管理運営	8.1 統括
質的向上のための示唆 判定：部分的適合	
改善のための助言	
大学に評価情報室が設置されており、中期計画に対する自己点検を行っているが、これらと連携するとデータも一元化され、内部質保証システムが完備し、PDCA サイクルでの検証が容易となるので、今後一層の連携が望まれる。	

現在の状況
<p>統合教育機構学士課程カリキュラム改善チームにおいて、「カリキュラムの継続的品質改善プログラム」の導入に向け検討を行っている。また、統合教育機構 教学 IR 部門において、本学が保有する教学 IR の活用方法について引き続き検討している。</p>
今後の計画
<p>本学が保有する教学 IR データの活用方法について、外部コンサルタントの利用も含め引き続き検討する。また、解析結果を統合教育機構内の教育技法開発チームなどにフィードバックする。</p>
現在の状況を示す根拠資料
<p>資料8-1 カリキュラムの継続的品質改善プログラムの考え方</p>